วารสารกรุงเทพฯ

クルンテープ

Since 1968　NO. 624 | 2020年 10月－12月

タイ国日本人会
Japanese Association in Thailand

日本人会×国際協力機構（JICA）コラボ・オンライン講座「親子で参加！JICAオンライン出前講座〈対タイODAの今までと、これから〉」開催
講師：水上貴裕氏　８月14日（金）

特集1

自粛生活こぼれ話

コロナ禍の私たち

「バンコック隔離生活14日間の記」
「暁の家とコロナ禍」

特集2　チャリティー基金寄付金贈呈

日本人会の社会貢献活動II

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校
Live Our Lives Group

特集3　初のオンライン開催

2020年度 タイ国日本人会 定期総会のご報告

vol.14 チャオプラヤー・スカイパーク（バンコク）

荒廃した鉄道遺構から緑溢れる憩いの高架橋公園へ
昔ながらの花市場や日本人納骨堂に立ち寄りながら
バンコクの新名所で深呼吸しませんか？

チャオプラヤー川の景色を360度楽しめる橋上の公園

チャオプラヤー・スカイパーク

今から40年前に日本のODAで建設されたプラ・ポックラオ橋。首都圏鉄道の建設が計画されながらも、資金繰り悪化により30年以上放置された鉄道橋の遺構が改修され、新たな公共空間に生まれ変わりました。遊歩道の両脇に車道が走っており、車より高い位置を歩く形となり、自動車に視界を遮られることなくチャオプラヤー川の景色を360度楽しむことができます。

日が陰り川風が心地よくなる夕方からがおすすめ

access

地下鉄ブルーラインのサナームチャイ駅から徒歩圏内

日本人納骨堂を擁する壮麗な寺院

ワット・ラーチャブラナ（ワット・リヤップ）日本人納骨堂

ワット・ラーチャブラナは白壁に金の映える壮麗な寺院。内部には大きな黄金の仏像があり、見ごたえ十分。また敷地内には、日本人会が保守・管理をしている日本人納骨堂があり、500柱以上の霊が安置されています。納骨堂には堂守として高野山真言宗より留学僧を招聘しお勤めいただいております。

ワット・ラーチャブラナ

日本人納骨堂

堂守の小川師

タイ最大の生花市場

パーク・クローン花市場

バンコクのチャオプラヤー川沿いにあるタイ最大の生花市。通りの両脇に100軒ほどの花屋が並び、ジャスミンや蓮の花、蘭などタイらしい花々や、寺院にお供えするための花飾り（プアンマーライ）をそこかしこで見ることができます。市場の中には野菜や果物を売る店舗も点在しています。

パーク・クローン花市場

ラタナコーシン様式の美しい駅

MRTサナームチャイ駅

サナームチャイ駅はラタナコーシン島（バンコク旧市街地）の中心部に位置する、ラタナコーシン様式の建築や装飾が美しい駅です。この駅が開通したことで、王宮周辺へのアクセスが便利になりました。

写真・情報提供／水上貴裕、タイ国政府観光庁、中村慈恵

วารสารกรุงเทพฯ

クルンテープ

2020年 10月－12月
NO. 624 ● 目次

02 Open to the New Shades
荒廃した鉄道遺構から緑溢れる憩いの高架橋公園へ
チャオプラヤー・スカイパーク

05 コロナ禍の私たち
自粛生活こぼれ話
バンコック隔離生活14日間の記
重松秀臣　三井住友銀行バンコック支店長
暁の家とコロナ禍
中野穂積　ルンアルン(暁)プロジェクト代表
【インタビュー◉コロナを超えて】
パパたちの意識が高まった　冨江幸代さん
Zoomでお茶会 ネットでメンタルケア　外岡ゆきみさん

14 日本人会の社会貢献活動Ⅱ
プレー・サンティ・ジンタナ盲学校
Live Our Lives Group

18 きっかけはタイ タイから繋がるライフストーリー
小沼仁美さん　福島県田村市役所観光交流課勤務
タイの経験が海外に魅力を伝える今の仕事に役立っている。

20 2020年度タイ国日本人会定期総会のご報告

24 俳句と短歌の広場

25 活動報告

26 タイ国日本人会ゴルフ部月例会成績

27 タイのお菓子は二度おいしい　ムシカシントーン小河修子
グラトーン・ローイゲーオ
塩気のきいた冷たいシロップにグラトーンの香気

29 すくすく会通信

30 編集後記

P2
写真／水上貴裕

P10
写真／山岸秀夫

表紙：日本人会オンライン講座
場所：タイ国日本人会別館

８月14日(金)、日本人会×国際協力機構(JICA)コラボ・オンライン講座「親子で参加! JICAオンライン出前講座〈対タイODAの今までと、これから〉」をZoomで開催。講師は水上貴裕氏。

写真 ／日本人会事務局

P27

コロナ禍の私たち

◉特集

新型コロナ対策として、タイでは3月26日から
非常事態宣言が適用され、自粛生活が始まりました。
店舗は閉まり、学校は休みになってオンライン授業、
会社も在宅ワーク。それまで当たり前だったちょっとそこまでの
外出もままならない「不安」「不便」「不自由」な生活。
けれど、週末も家にいないことが多かったパパと子どもたちが
いっしょに家でパソコンに向かい、家族で三食を共にする。
そんな生活の激変に、思いがけない発見や予期せぬ〝ほっこり〟も。
まだまだ予断を許さぬ状況ですが、
コロナ禍の自粛生活を振り返り、そこから前に進みたい。
そんなココロでお届けする特集です。

自粛生活こぼれ話

料理に開眼

◆単身者や独身者が自炊を強いられ、
結果として明らかに
女子力が上がった。
会社での盛り上がる話題が
「新しく買いかえたパター」から
「醤油の意外な使い方」に。（くにたち塾居日記）
※醤油の輪にまぜてください。

◆自粛生活で
パパが料理に目覚め、
週末のごはんはパパが担当に
なりました！（すくすくだより）
※めでたい！

題字制作・撮影/ムシカシントーン小河修子

◆このままだと**ランチ難民**になってしまう。

ということで3月末からお弁当を作ることに。
最初はご飯に鰹節を混ぜてフジスーパーで買った
コロッケをのっけた茶色弁当。そこから料理の日々が
始まった。だんだん料理器具や調味料が増えてきて、
同年代で料理トークとお弁当写真の交換の日々。
この日は、ラタトゥイユ、五目ヒジキ、ハンバーグとナス、
最近は色が増えてきた。今日もタイ人スタッフたちが何弁当？
と聞きながらつまんでく、僕の弁当なのに……　（つくおき命）

※つまんでもらえるお弁当は勲章です！

◆ピザやパン、うどん作りなど普段はしなかった
手作りをするようになった。
子どもも一緒に手伝ったりして、
料理をともにする時間がちょっぴり増えた！
（すくすくだより）

※かけがえのない時間ですね。

家族再発見

◆**20年**
忙しくて会えなかった
家族と話ができて、
家族の和が強くなった。

※20年…ちょっともらい泣き。

◆私がずっと
家に居るので
猫にあきられて
しまった。（KAORU）

※猫さん、遊んであげて。

インタビュー◉コロナを超えて

助産師　冨江幸代さん

パパたちの意識が高まった

――助産師さんがボランティアで赤ちゃん相談にのってくれる「助産師ほっとLINE in バンコク」「助産師さんのおっぱい相談」は頼もしい存在ですね。コロナ禍の影響は？

コロナ以前はサミティベート病院の一室を借りて、毎週金曜日に「助産師さんのおっぱい相談」という対面相談を行っていました。ですが、3月の終わりに非常事態宣言が出されると病院も使えなくなり、週1で行っていたLINEでの相談を随時受け付けするスタイルにしました。そうしたら件数がグンと増えて、普段は月に7件くらいでしたが一気に13～14件に。

――どのような相談が？

おっぱいの量が足りないのではというご相談が、コロナ前も含めて一番多いのですが、30分近く話していると、ママ自身のことを語り始める方も少なくありません。話をする人がいなくて胃が痛くなる、みんなどうしているのか気になって不安など。サミティベート病院で一室をお借りしてやっている「おっぱいミーティング」もできなくなっていたので、赤ちゃんを育てているママたちは人に会う機会がなくなってしまった。直接会って話したい、友達がほしい。でもコロナ禍なので会おうとも言いづらい。そういったご自分の気持ちを相談したくても、カウンセリングは敷居が高い。

◆日本在住の70代の父が
LINEやZoomを
使いこなして、
コロナ禍でもわりとエンジョイ。
時代についていくって
大事って思った。（ぺんぎん555）
※そんなお父さん、素敵です！

◆乳児の息子のグズグズが
ひどい時に、在宅勤務中だった夫と
抱っこを交代できた。
ほんの少し交代して
もらえるだけでも、
息抜きになって助かった！
（すくすくだより）
※パパ大活躍！

◆コロナ禍で帰国もなかなか叶わず、
御年80歳を迎える祖母にも会いに行けない今日この頃。
祖母も落ち込んでいると聞き、なんとか元気づけたい…！
と始めたのが**〝リモート観光〟**。
タイの観光地から母の携帯にビデオ通話を
かけ、祖母に実況中継で名所を紹介する
という思いつきですが、これが思いのほか
祖母に好評。「孫の顔を見られるだけでなく、
遠く離れたタイの地を巡っているような
気分になれて嬉しい」と大変気に入った
様子でした。いつか帰国が叶う日まで、
タイじゅうを旅して
祖母を元気づけたいと思います！
（バックパッカー孫）
※素晴らしいアイデア！ 早くおばあちゃんと
お会いできるようになるといいですね。

母乳や育児の相談からならご自分のことも話しやすいのです。

最近注目されている「産後うつ」の割合も、日本国内の場合は10人に1人なのに対し、海外ではその約5倍のリスクがあるというデータもあります。その対応を日本人の子育てコミュニティーが井戸端会議的に担っていたのに、機能できなくなったわけです。

――孤立感が深まりますね。

でも別の一面もあって、パパが在宅ワークになったお陰で、子育てが楽になったという方も。パパが家にいる時間が増えたので育児参加も増え、子育ての大変さやサポートの必要性、何が自分にできるかを知るいい機会になったそうです。また、日本への里帰り出産の予定がタイで出産することになった方たちは、実家の母親の応援も期待できなくなったので、その分を自分がしなくてはならないとパパたちの意識が高まりました。

「出産準備教室」では、これからパパになる方に妊婦ジャケットを着てもらったり、先輩パパの話を聞く機会を設けたりして、子育ての当事者意識を高めていただけるような働きかけを行っていますが、お仕事も遠方だったり多忙だったりで帰宅時間も遅く、また週末もお仕事に付き合いにと不在になりがちなパパも少なくなく、なかなか難しい一面もありました。ただもともと子育てに関しては意識の高い方が多いバンコクのパパたちですので、在宅ワークになったことで、意識改革が実行を伴って一気に進んだように感じられます。

「助産師ほっとLINE in バンコク」「助産師さんのおっぱい相談」はこちらから
https://sukusukubkk.wixsite.com/sukusukukai/midwife

運動！

◆3月20日頃からステイホームと言われ、自宅にジッとしているうちに身体がなまってくるのを感じ、家内と相談して**ラジオ体操**とストレッチをすることにしました。以来5ヵ月近く続いております。これは不幸中の幸いです。

※コロナが健康ライフのきっかけに。

◆運動不足解消のため、子どもと一緒に**縄跳び**練習開始。なまって数十回でバテていたのが、最高600回達成!!（すくすくだより）

※おめでとうございます！

◆**1日8000歩**歩くことを始めました。

※健康の足音が聞こえます！

◆夫が自粛中、**ひとりライザップ**をやると宣言し、飲み会も接待もない中、見事に10キロ近く減。体脂肪のみ減らして、見事なシックスパックに。比してお菓子作りに目覚めた私は体脂肪率アップ

（すくすくだより）

※次は2人でライザップ。

インタビュー◎コロナを超えて

みんなの相談室・総務 外岡ゆきみさん

Zoomでお茶会 ネットでメンタルケア

――「みんなの相談室」は普段はどんな活動をしていらっしゃるのですか？

一つは臨床心理士・カウンセラー・社会福祉士など心理資格を持っている専門家グループのスタッフが、一対一でカウンセリング的なお話のできる場を設けています。

もう一つは「みんなのお茶会」。集まっておしゃべりをする会で月1回くらいの開催です。バンコクでは友達や知り合いがいない中で生活がスタートする方が多いので、友達作りの場ですね。毎回テーマを決めてのおしゃべりの会で、ある時はおすすめの店の紹介だったり、お子さんや子育てを終えた方を対象とした情報交換だったり、ペットを飼っている友達がほしいという声があってペットの情報交換の回もありました。

一対一の相談をするまでではないけれどとか、いきなり相談は敷居が高く感じられる場合、まずはお茶会に参加してみて、こんな感じなんだと知っていただくワンクッションという意味もあります。

――コロナ禍で「Zoomでお茶会」になり、何か変化は？

日本人会のフェイスブックで情報を流していただいたことで、男性や年齢が上の方の参加がありました。普段は開催が平日と

インタビュー・文（P6〜9）/ムシカシントーン小河修子

ハマった！

◆夫がNintendo Switchを買ってくれた♡
私もついに、
あつ森デビュー
ができました♡（すくすくだより）
※「あつまれどうぶつの森」は大人気。

◆外出を控えていたので
Netflix三昧になり、
敬遠していた韓国ドラマにまで
手を出して見事
『愛の不時着』の
罠にハマってしまったのは
よい思い出です。（ミズアノニマス）
※甘い罠ですものハマってしまいますよね。

◆断捨離に徹する。
この際、
長編版**読書**を楽しむ。
（日本人会図書館で
たくさんの本を借りました）。（みーこ）
※何冊読めましたか？

子どもと！

◆自粛期間に
自転車を買ったら、
上の子（5歳）が
乗れるように
なりました（^^）
下の子は兄が毎日一緒で
嬉しそうでした。
（すくすくだより）
※なかよし兄弟。

◆以前は喃語が主だった2歳の息子。
ずっと私としゃべっていたからか、
語彙力が一気に増えて
歌も歌えるように！
彼の要求が理解しやすくなりました！
（すくすくだより）
※この頃のお子さんの言葉は宝もの。

いうこともあり、20代から40代の駐妻の方が多いです。

「Zoomでお茶会」は最初週5回で始めたのですが、たとえネット越しでも顔を見て「こんにちは」とお話をすることそのものがメンタルケアとして有効だと感じました。コロナで頭がいっぱいになりがちな中で、気持ちを切り替えて楽しいこと、興味のあること、好きなことについて話す場所があることがストレスケアになります。私たちが何かを提供するというより皆様から情報を提供いただいて、相互の交流ができたことで元気をいただいたとも思います。これがきっかけで新たに挨拶する人が増えました。

―今後は？

以前と同じく月に1回、リアルでお会いするお茶会を続けていきます。「Zoomでお茶会」もやっていますが、お申し込みのない回もあって、役割は終えたかな。「みんなの相談室」の存在を知らない方も多いので、たくさんの人に知っていただき、困った時に利用していただければいいですね。

気持ち的にシンドイのはこの後だと思うんです。今はまだわりと気が張っていて日々のストレスを「エイエイオー」で乗り切っている方、新しいことに対応するのに夢中だという方が状況に慣れてきた時にふっと「しんどいわ」、となることが多い。ですので、相談まではという場合でも、ご自分の心理状況を客観視するためにもお茶会は有効だと思います。心の元気を保つ手段としてこういう選択肢もあることを心の片隅にメモしていただければと思います。

みんなの相談室の活動の詳細、ご相談はこちらから https://sodanbkk.wixsite.com/minna/event
●ボランティア募集中！（事前研修を受講していただきます）

ASQホテル滞在記

バンコック隔離生活14日間の記

銀行に入って30年と少し、ここまで会社に行きたいと思ったことは、未だかつてなかった。

三井住友銀行バンコック支店長
重松 秀臣

スワンナプーム空港到着 看護師は完全防護服である

２０２０年３月26日、タイ王国は新型コロナウィルス対策として非常事態を宣言し、海外からの門戸を閉じた。

それに先立つ24日、私はバンコック支店への異動内示を受けていたが、当時は「５月ゴールデンウィーク明けぐらいには何とかなるだろう」と軽い気持ちであったことを覚えている。

ところがその後情勢は日増しに悪化。世界各国で感染者が爆発的に増加し、つれてロックダウンを行う国・都市が続出。経済も坂を転がるように悪化していった。

当然、私の渡航の目処は全く立たなくなったが、総支配人兼支店長という役目柄、早晩現地でのオペレーションに支障を来たす恐れが大きく、関係各所にお願いをして入国を認めてもらうよう働きかけを行うこととなった。詳細は割愛するが、タイの関係各省・中銀・大使館などのご協力を得て、５月26日に無事、渡航を果たすことができた。改めて感謝申し上げたい。

５月26日の飛行機は本来、タイ人が帰国するための臨時便であり、タイ大使館の特別の計らいをもって乗せてもらったものである。タイ人搭乗者はおよそ40人程度、日本人は私だけであり、ビジネスに乗るよう指定された。

スワンナプーム空港到着後、税関を通ったところにバンコク病院のスタッフ・看護師が待ち構えていた（看護師は完全防護服である）。ちなみにバンコク病院および提携ホテルは、バンコック支店のほうで手配をしてくれていた。

私と、イタリアから来たという男性とともにバンに乗せられバンコク病院へ向かう。いくつかの手続きを経た後、個室の病室をあてがわれた。しばらくすると医師と看護師がやってきて、熱はないか、咳は出ないかなど一通りの質問を終えた後、「ＰＣＲ検査だ」と言って、喉と鼻の粘膜を擦り取られた（これがそこそこ痛くて、涙が出る）。その日はそのまま病室に１泊。翌日、無事ＰＣＲでコロナ陰性が確認され、Mövenpickホテルへ行くことを許された。これから14日間の隔離生活が始まると思うと、少し不思議な気分であった。

逃げていくホテルスタッフを眺めつつ弁当を受け取る

MövenpickホテルはＢＴＳチットロム駅の近くにあり、一応リゾートホテルを謳っているが、このときは（７月25日現在も）隔離施設として使われていた。部屋は１ＬＤＫで70㎡程度とかなり広い。テレビはもちろんあるが、残念ながら日本語放送はなし。ベランダからは中庭とプールが見える。エクササイズ用にバランスボールとヨガマット（!?）があった。

ホテルスタッフが色々と説明しているのだが、兎に角なまりがひどく、何を言っているのかさっぱり分からない。中庭を歩けると言っているようだが、申請方法が聞き取れない（結局、中庭に出ることはなかった）。その他にも部屋の設備や、食事・検温など、なんやかんやと言っているのだが、「イエスイエス」と適当に受け流していた。

部屋にあった説明書きを見ると、外からの食料・飲料の差し入れは不可。アルコールも不可。ルームサービスはソフトドリンク・スナック・おつまみ程度しかない。私は余り飲まないので構わなかったが、酒好きの人は大変だったと思う。

少し落ち着いたところでフロントから電話が入り、食事を選べという。当日の分だけかと思ったら、１週間分朝昼晩をま

弁当は部屋の前に置かれる。空箱・食べ残しは袋に入れ、口を固く縛って出す

とめて言えとのこと。それぞれ毎日、2種類から選べるのだが、どんな料理なのかさっぱり分からないので、適当に頼んでしまった。それでもホテル料理であり、サーブはしないまでもそれなりのものが出るのでは、と期待していた。

18時ごろ部屋のチャイムが鳴る。ドアを開けてみると、向こうに消えていく（逃げていく）スタッフが見えた。置いてあったのは弁当とフルーツであった……。まずくはないのだが、なぜかもやもやする。食べ終わってトレーに空箱を乗せ、外のテーブルに置いた。暫くするとフロントから電話があって、なんだか怒っている。よく分からず何度も聞き返した結果、付いていた赤い袋に空箱・食べ残しを入れ、口を固く縛って出すルールだったようだ。最初の説明を受け流していたので、理解していなかった。完全に、ばい菌扱いであった。

さて隔離生活の一日である。食事は前述の通り、朝昼晩とチャイムが鳴らされ、逃げていくホテルスタッフを眺めつつ、テーブルから弁当を取る。

検温は午前と夕方の2回。熱を計った後、「頭痛・鼻水・咳、その他体調に問題はないか」と質問あり。本当は鼻水も出るし、ストレスでだるかったりするのだが、病院に送られてはたまらないので、「うん、何の問題もない」と言い切っていた。

テレビは付けても面白くないので、もっぱらネットサーフィン（Wifiあり）。持参した本はあっという間に読了。運動不足解消のため、腕立て腹筋を日課とした。ゴルフ道具持参だったのでパター練習をしたが、フローリングの床では何の意味もなかった。

会社や商工会議所との面談・会議はスマホを使った。「どうせ分からんだろう」とパンツ一丁で臨んでいたのは、ここだけの話である。

困ったのは洗濯。洗剤を持ってくるのを忘れていたので、下着も含めて全部をホテルのランドリーに頼む羽目になった。非常に高くついてしまった。

部屋の掃除、シーツ交換は3日に1度。向かいの部屋に追い出される。水は頼めば持ってきてくれた。

ほとんど何をすることもない一日を送っているのだが、これが思った以上に精神的に応える。銀行に入って30年と少し、ここまで会社に行きたいと思ったことは、未だかつてなかった。「定年後はのんびり」などと考えていた時期もあったが、暇に耐えられない身体になっていることを痛感した。

隔離後1週間を過ぎたあたりから、運動不足と3食弁当のおかげで腹が出てきた。リズムが崩れているので、便秘も併発である。ストレスも溜まりに溜まって、体調がよろしくない。この監獄からの出所を指折り数えるようになってきた。

娑婆の空気はうまい

6月8日、出所の前々日、再びPCR検査を受けた。翌9日に改めてコロナ陰性が確認され、晴れて出所が認められた。

10日、出所の日。今まで電話・メールでやり取りしていた秘書と初めて会った。何から何まで本当に有難う。娑婆の空気はうまい。

諸々の手続きを終え、迎えに来た社有車に入ったとき、隔離生活の終了を実感した。これからタイでの新たな生活が始まる。不思議と体調の悪化は治っていた。

以上、拙い文章ではあるが、私のコロナ禍での経験である。経済的な困窮・売り上げの急減・事業継続計画対応・ロックダウン下での会社運営など、他の方々が経験されたことに比べれば、何とも小さい経験ではあるが、些かでもお役に立てれば幸甚である。

2020年7月25日
タイ・バンコックにて

スワンナプーム空港到着後、入国書類のチェックと体温の測定

写真／花澤貴文、山岸秀夫（p11上）

チェンライ山麓便り

暁の家とコロナ禍

山岳民族の子どもの教育支援と自然保護活動を行っているNGO

ルンアルン（暁）プロジェクト。北部チェンライの山の麓からのお便りです。

ルンアルン（暁）プロジェクト代表
中野 穂積

昨日から降り続いた雨がようやく止みました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今年はコロナウィルス感染拡大の思いがけない事態に遭遇し、タイ正月ソンクラーンも返上となりましたね。政府の施策に徹底して協力するタイの人々の様子と比べると、ニュースで見る日本のお花見の無防備な人々の様子に違和感を覚えたりしました。

あれから除々に日常を取り戻している暁の家ですが、いつもは日本からの訪問者、大学のスタディーツアーなどで賑わう8月、今年はひっそりとしています。

暁の家では1月に予定通りスタディーツアーを受け入れましたが、事態が深刻になってきた2月、予定していた大学のツアーが2か所、相談の上中止となり、3月に個人客を2件受け入れた後は、来客の受け入れを中止することにしました。

山の村もソーシャルディスタンス

26日に非常事態宣言となってからは、県境も封鎖され、山の村訪問も控えなければなりませんでしたが、コーヒー支援農家へは年度内にコーヒー豆買い入れを済ませたく、3月末に村行きを決行しました。山の村ではお年寄りから子どもたちまで、皆マスクを付けていました。いつもは握手であいさつするラフの人々も今回ばかりは握手を控え、タイ式の合掌となりました。

非常事態宣言直前に、バンコクなどへ働きに出ていた若い人たちが、山の村に帰ってきました。よくお客さんを案内するパーキヤ村のビデオ映像が村長さんから送られてきました。娘さんが久しぶりに帰ってきたのに一家団欒もなく、そのまま離れで隔離となった娘の様子を見つめながら、頬をぬぐっている母の横顔が印象に残りました。スタッフの実家のある村では、畑の出小屋で若者たちが14日間、食事を家族に運んでもらいながら過ごしたそうです。

非常事態宣言以前に、立ち入り禁止となった山の村もありました。暁の家のコーヒー農園のあるアカ族の村、ドインガームでは、村のボランティアが村へ出入りする人や車を全てチェックしていました。

コーヒー直送販売で交流思いがけない楽しみに

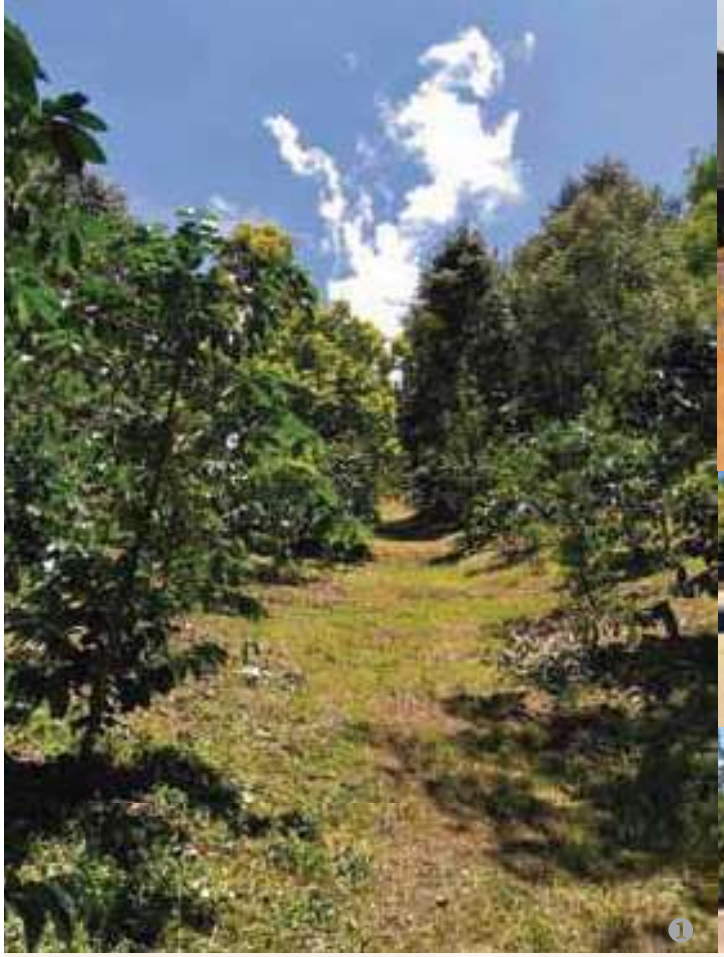
3月末にチェンライ市内で予定していた理事会は、オンライン会議を提案する声も聞こえましたが、私を含む不慣れなメンバーも多く、緊急な議題もなかったため、事態が落ち着くまでの延期となりました。

4月には国際郵便も送れなくなり、山のコーヒー農園で有機栽培、暁の家で焙煎したコーヒーも日本へ送ることができなくなりました。船便は送れるとのことでしたが1カ月半もかかっては、せっかくの焙煎したてのコーヒーも風味が損なわれてしまいます。日本からの注文があっても送れないというもどかしい日々が続きました。

そんな時、いつもバンコクで暁の家のコーヒーやジャムの予約販売をしてくださっているサポーター修子さんとともみさんから、今月は予約販売なしだけれど、この機会に直送販売できますか？と提案がありました。

天日で干す
❻7月に開催した奨学生会議

中野さん（右端）とルンアルンプロジェクトのスタッフ、研修生



❶ルンアルンの山のコーヒー農園　❷山の支援農家を訪ねコーヒー豆の買い入れ。村人はみなマスク着用　❸コーヒー豆を
❹暁の家（ルンアルンプロジェクト）❺幸せ分かち合いの机「おいしい野生種のマンゴーです。お持ち帰りください。無料です」

願ったり叶ったりのことで喜んで引き受けました。タイ国日本人会のＬＩＮＥやフェイスブックでも広くお知らせしていただき、合計約40ヵ所にコーヒーをお送りすることができました。

それは、バンコクでコーヒーを飲んでくださっている方々と直接やり取りをし、交流させていただくという、思いがけない楽しみとなりました。たくさんの称賛、ねぎらいのお言葉をありがとうございました。皆さんがコーヒータイムを楽しんでくださる様子を想像しながら焙煎、パッキング、発送作業をすることができました。

その後、タイ国日本人会のご支援を知ったチェンマイ日本人会の世話役の方も、私たちも予約販売で協力を、と申し出てくださり、たくさんのコーヒー、ジャムを販売することができました。皆様ご協力、ありがとうございました。

「幸せ分かち合いの机」に庭の野生種マンゴーを

4月末頃からようやく雨も降り出し、暁の家に自生した野生種のマンゴーも次々に実り始めました。食べきれず、ジャムにするにもいつもの瓶が品薄で調達することができませんでした。

5月中ごろ、まだ正式には県境が開いていない時期にチェンマイへ出て、「幸せ分かち合いの棚」を見ました。それでは、棚ならぬ机を暁の家の門の前に置いて、マンゴーを食べたい人々に持っていってもらえないだろうか、ということになり、1・5キロ入りの袋を並べてみたところ、10日間で約90キロの野生種マンゴーを提供することができました。黙って持ち帰ることをはばかり、大きな声でありがとうを言ってくださる人々、子どもたち、思いがけず近隣の人々との交流ができました。

マスク着用で奨学生会議を開催

奨学生との活動も約1カ月半遅れで7月18日に、２０２０年度第27期生の奨学生会議を開くことができました。まだマスク着用、椅子は1メートル離しての実施でしたが、今年度もようやく始められたという実感に安堵しています。

日本では第2波と呼ばれるコロナ感染が広がり、コロナを抑え込んだように見えるタイでも膨大な失業者を抱え、経済立て直し等の重大な課題があります。まず自分の周りから、私たちにできることから始めましょう。いつか聴いた歌、「明日を信じて」。そんな気持ちです。

HP：ルンアルン（暁）プロジェクト：http://www.rungarun-akatsuki.ednet.jp/
FB：ルンアルンコーヒーサポーターサイト：RUNG ARUN Coffee Supporter（コーヒー販売情報）

日本人会の社会貢献活動II

◉特集

Live Our Lives Group (LOL)

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校

タイ国日本人会では、日本人会チャリティーバザーの純益金や企業・団体・個人の方々からの寄付を原資に、タイで社会貢献活動を行っている団体を支援しています。前号に続き、日本人会が支援するタイの福祉団体、プレー・サンティ・ジンタナ盲学校、ＬＯＬをご紹介します。

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校

Phrae Santi Jintana School For The Blind

■日本人会の支援

盲学校の寮のベッド寝具購入費23万バーツを寄附。

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校 ディレクター
アンチャナ・コンマライパン

タイの全寮制盲学校

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校は、寄付により運営される民間の全寮制盲学校です。本校は、実証哲学及びタイ盲人協会財団を通したタイ盲人協会（ＴＡＢ）の指導のもと、プレー県及び周辺県の盲学生へ無償教育を提供しています。

本校は、プレー県、ナーン県、ピッサヌロック県、スコータイ県、ウッタラディット県、カムペーンペット県、ペッチャブーン県、ピチット県、ナコーンサワン県、そしてチャイナート県出身の50人の盲学生が通っており、幼稚園の3年間と小学校1年生から6年生までの6年間の、9学年の盲学生を対象に教育を提供しています。

プレー・サンティ・ジンタナ盲学校で学ぶ盲学生は、小学校の教育課程の修了後は、本校より食事、寮、点字教科書や他の学習支援サービスを受けながら、近隣の普通学校で教育を継続します。ほとんどの生徒は低所得家庭出身で、両親が離婚した盲学生もいます。プレー・サンティ・ジンタナ盲学校は、全

贈呈式

ての学習者へ教育を提供するという具体的な目標を掲げています。これにより、本校で学ぶ盲学生が学問的知識と同時に自立するための基礎技術を習得することを目指しています。

安全性の向上のためベッドと寝具を新調

このたびタイ国日本人会より、本校で学ぶ盲学生のためのベッド及び寝具セットの調達・供給プロジェクトの予算として、23万バーツの寄付をいただきました。寄付金は、本校で学ぶ盲学生の寝室の2段ベッド25台（3・5フィート）及び寝具セット50個の調達・供給に充てられ、より良く安全に学生寮で生活することが出来るようになりました。

タイ国日本人会による寄付が、本校で学ぶ盲学生の生活の質の向上に寄与し、学習能力を高め、社会の有意義な一員となるための支援になると信じています。

タイ国日本人会に改めて御礼申し上げるとともに、今後も引き続きご支援くださいますようお願い致します。

BEFORE

AFTER

プレー盲学校の生徒たちからお礼のメッセージ動画が届きました。
こちらからご覧いただけます↓
https://www.jat.or.th/jp/news-detail.php?id=2132

Live Our Lives Group
LOL

■日本人会の支援

人身取引被害者のリハビリ会議費9万2800バーツを寄附。

rdsrisantud氏
当者

Hatthisengking氏がZoomを通しワークショップに参加

JICA（国際協力機構）タイ事務所
ラティコーン・ノーラセタポーン

人身取引被害者サポートグループLOL

Live Our Lives Group（LOL）は、人身取引被害者が元被害者同士で支え合うことを意図したグループで、メンバーのほとんどが海外からの帰還者です。LOLのメンバーは、他の人身取引被害者へ精神的支援やその他の支援を行う一方、学生や地域の人々を対象に、実際の経験に基づいた演劇を通し、人身売買や安全な移住についての啓発活動を行っています。

LOLは毎年、メンバーを対象としたワークショップを開催しています。ワークショップでは、メンバーの現状やグループの今後の活動計画などが話し合われます。

国際協力機構（JICA）が実施した人身取引対策（anti-TIP）プロジェクトの第2フェーズでは、LOLの主要メンバーの能力開発が支援され、年次のリハビリテーションワークショップも実施されました。

年次ワークショップは、タイ国日本人会より開催費用の一部を支援いただき、今年は8月1日から2日にかけて、カンチャナブリー県のシーナカリンダムで開催され、参加メンバーは皆、恵まれた天候と美しい自然のもと心と体をリフレッシュしました。

今年のワークショップには、LOLのメンバー10人が参加しました。その内の2人は、LOLと女性財団の支援によりタイに帰還した新規メンバーでした。

2日間にわたり開催されたワークショップでは、女性財団の前ディレクターで現在は同財団のボランティアとして活動するUsa Lerdsrisantud氏、及びLOLのコーディネーターであるPathapimath Weechokchansang（ニーさん）氏が司会・進行を務めました。

ワークショップ報告

■2020年8月1日
LOLの過去の活動紹介
及びメンバーの訴訟事案のフォローアップ

グループワークの発表

グループワーク

LOLメンバー10人、Lem
とJICA宮崎所長と担当

始めにメンバーがそれぞれ自己紹介を行い、新規メンバー2人にLOLの背景や活動についてより理解を深めてもらうため、これまでの活動を紹介しました。LOLの主要活動は、保護（人身取引被害者への支援）及び防止（啓発活動）の、二つの側面により構成されています。活動紹介後は、メンバーが訴訟事案の進捗状況について報告しました。また、新規メンバー2人が、タイに帰還するまでの受け入れ国における体験を他のメンバーと共有しました。

COVID-19の影響及び政府による救済措置に関するフォローアップ

参加メンバーでCOVID-19状況下における現状について共有しました。一部のメンバーは、観光地で働いていたり、県をまたいだ仕事や海外出張の制限により、COVID-19の影響を受けています。

■2020年8月2日

COVID-19からの社会・経済的回復における市民社会の役割

市民社会ネットワークの代表者であるSoontri Hat-thisengking氏は、Zoomを通し「COVID-19状況下における社会経済の回復のための市民社会の役割」について自身の考えを話しました。また、社会経済救済プロジェクト基金を紹介し、LOLの今後の活動のためにこの基金へ申請することを勧めました。

ブレインストーミングセッション及び今後の活動に関するグループワーク

メンバーは、ブレインストーミングを行い、LOLとして今後行いたい活動に関して話し合いました。

▼LOLが運営するマッサージ店とカフェを開業するための資金の申請

▼フェイスブックページの開設

▼啓発活動

▼リハビリテーションワークショップ

■総評

メンバーは、今回のワークショップでLOLの持続的な収入源を目指したマッサージ店やカフェの開業など、今後の活動について斬新なアイディアや長期的な見解を共有しました。また、Zoomなどのテレビ会議システムを通し、他の場所にいるリソース・パーソンとつながることが出来ました。次回のワークショップでは、テレビ会議システムのさらなる活用により、ワークショップに参加することが出来ないメンバーとつながることが出来れば良いと思います。

また、お互いの助け合い、特に精神的支援におけるメンバーの善意を感じました。新規メンバー2人は、今回のワークショップで初めて他のメンバーに会いましたが、非常にリラックスした様子で、安心して辛い経験を語ったように見受けられました。既存のメンバーも新規メンバー2人を温かく友好的に迎え、新しい生活をスタートする上でのアドバイスを提供しました。しかしながら、ワークショップは2日間という限られた時間の中で開催されたため、各メンバーが経験を十分に共有するには時間が足りなかったかもしれません。

LOLの主要課題の一つは、元被害者にいかにこの会の取り組みを知ってもらい参加してもらえるかということです。毎年のワークショップでは、新規の参加は1～2人に留まっています。タイへの帰還者を支援する他の機関と協議し、新たな帰還者をLOLが実施するリハビリテーションワークショップへ招待することを模索する必要があるかもしれません。

贈呈式